

下市町教育委員会だより

教育委員会から町民の皆様への情報通信



令和8年8月1日 第73号
奈良県下市町教育委員会
教育長 上東 祥浩 発行

子どもたちの学びの未来を拓くために ～あきつ学園～

あきつ学園では、奈良県教育委員会の研究指定を受け、『「教えないスキル」で育む力～「思考の追従」を支える「教え過ぎない」』指導性～と題して取り組んでいます。「知識の習得と深い思考を一体化させる必要がある」という昨年度の総括から、令和8年度は次なる進化として、『思考の追従』をテーマに掲げ、子どもの思考を「他者の思考に沿って、思考の幅を広げる」指導の研究を進めています。

「教えないスキル」とは、基本的な知識や技能を身に付けさせたうえで、「児童・生徒の力を引き出す」授業づくりの事です。子どもたちが「学び方を学ぶ」ことは、これからの時代を生き抜く力になることは間違いありません。

7月9日(木)、岐阜聖徳学園大学 客員教授 玉置 崇先生をお招きし、4時限目と5時限目の授業を見ていただいた後、研修会を行いました。さらに、10月に2回目の研修会を行い、1月には公開授業を予定しています。



台湾の子どもたちと国際交流

～あきつ学園～

▼7月8日(水)、台湾(金門県)の金門県立金寧国民中小学から26名の生徒と教職員・ガイド7名の皆様が、あきつ学園を訪問されました。子どもたちに、新しい価値観と出会い、国際社会への理解を深めるための交流は、今年で3回目となります。▼あきつ学園の生徒たちが、校舎案内を行ったり、給食をいっしょに食べたりして交流を図りました。そして、体育館等でレクリエーションを行い楽しいひとときを過ごすことができました。

▼下市町の目指す子ども像に、『国際社会に目を向けながらも、これからの「下市」を築いていく子ども』を掲げています。子どもたちが、異なる文化を持つ人々との交流を通じて、多様性を認める柔軟な心を育むこと。互いの文化や価値観を尊重し、理解を深めること。外国語を使ってコミュニケーションする機会を持つこと。等をねらいとして実施しています。



第3回下市生活学校

▼7月9日(木)、第3回下市生活学校では、防災対策を考える～防災避難ゲームにチャレンジ～と題して、防災士 松田 哲子様にご講演をいただきました。▼災害を『自分事』として捉え、防災対策を進めるために、カードゲームを通して「いざ」という時に役に立つ防災知識を学ぶことができました。



わくわく保育

～こども園～

▼7月18日(土)、こども園のぞう組(5歳児)さん5名は、恒例の『わくわく保育』を体験しました。▼今年は、こども園で実施しましたが、楽しいお遊びがたくさんありました。▼『オセロゲーム』『ビンゴゲーム』そして、ボールすくい、的当て、かき氷など、こども園の『なつまつり』をみんなで楽しむことができました。



下市町更生保護女性会の皆様 ありがとうございます

▼今年もマリーゴールドの花々が、夏の暑さに負けず、青空を見上げるように咲き誇っています。見ているだけで元気が湧いてきます。▼下市町内の主な箇所に、季節に応じて、パンジー、ピオラ、ポーチュラカ、マリーゴールド等の花々を植えていただいています。いつもありがとうございます。心から感謝申し上げます。



戦後81年を迎えて ～平和の尊さ、命の大切さを考える～

以前、私が沖縄を訪れたときに、沖縄のおばあさんから教わった『命こそ宝（ぬちどう たから）』という言葉は今も忘れることはできません。今回は、沖縄県平和祈念資料館の許可をいただき、豊見城市立豊崎中2年生 亀谷琉奈さんの『生きたいと願った証（中略）』を掲載させていただきました。6月23日の『慰霊の日』に朗読された詩です。熟読いただき、平和の尊さと命の大切さを考える機会となれば幸いです。

「生きたいと願った証」

豊見城市立豊崎中2年生・亀谷琉奈

あの日の沖縄には 青い海も 優しい風もなかった 空は黒く 地面は揺れ人々の叫び声が絶えなかった
爆撃の音が 心まで壊していく まだ若かった曾祖母は 小さな体で必死に走った
血だらけの道を 倒れた人たちの横を もう動かない人を見ながら 涙を流す暇もなく
ただ生きるために 愛する夫の命を案じながら「お願い 生きていて」その想いだけを胸に
足がもつれても 呼吸が苦しくても 転びそうになっても 前へ前へと走った
しかし その願いは もう二度と届かなかった

～ 中略 ～

戦争は人を傷つける 体だけじゃない 心まで壊してしまう 家族と笑う時間 友達と過ごす日々
「また明日ね」と言える幸せ そんな当たり前を 全て奪ってしまう
でもそれは当たり前なんかじゃない 血と涙の中を生き抜いた人たちが 命を繋いでくれたから
今の私たちはいる もし曾祖母があの日走っていなかったら もしあの日 命を落としていたら
私はここにいなかった

曾祖母の右足の傷はただの傷じゃない 「生きたい」と強く願った証 「戦争は二度としてはいけない」
という叫び 私はその想いをこれから先も伝えていく
もう誰にも 血だらけの道を走ってほしくないから もう誰にも愛する人の 命が奪われることに
怯えてほしくないから もう二度と沖縄の空を戦争で染めてはいけないから

平和は当たり前じゃない たくさんの人の涙と苦しみと 「生きたい」という願いの上にある
だから私は忘れない
沖縄戦で苦しんだ人々を 愛する人を守ろうとした想いを 泣きながら生き抜いた人々を
そして 曾祖母の右足の傷を 「生きたい」と願った証の傷を 平和な未来へと繋いでいくために
(沖縄県平和祈念資料館提供)

▼梅雨明け後の7月に続き、8月はさらに厳しい猛暑と強い紫外線のシーズン。全国的に真夏日が続き、地域によっては 35℃以上の猛暑日や熱帯夜も頻繁になるという予報です。▼暑さ対策・熱中症予防対策を万全にして、暑さ厳しい夏を過ごしましょう。



ご意見・お問い合わせは…

下市町教育委員会事務局

☎ 0747-52-1711

FAX 0747-52-5159

✉ kyoi@town.shimoichi.nara.jp